

## 仏教論理学者ジャヤンタの引用する クマーリラの偈について

小 野 基

ダルマキールティの *Pramāṇavārttika* (=PV) に対するプラジュニャーカラグプタの註釈書 *Pramāṇavārttikālaṃkāra* (=PVA) には、インド選述の2つの浩瀚な複註が存在し、チベット大蔵経中に収められている。これらのうち成立年代がより早いジャヤンタ (=rGyal ba can; 10世紀頃) 著の *Pramāṇavārttikālaṃkāraṭīkā* は、その晦渋なチベット訳の故もあってか(梵文原典は未発見)、従来研究対象とされることの少なかった文献であるが、PVA を解釈するための基本資料として看過できないばかりでなく、幾つかの点で極めて興味深い著作である<sup>1)</sup>。

ジャヤンタ註の注目すべき特徴の一つに、同註が対論者のものと思われる数多くの偈を引用しているという事実がある。この種の引用は特に同註の *pramāṇasiddhi* 章と *pratyakṣa* 章に頻出する。ジャヤンタ自身がこれらの出典を明示する箇所は今のところ発見できないが、筆者の検討によれば、これらのうちの大部分はクマーリラの *Ślokaṅvārttika* (=ŚV) からの引用であり、中でもその *Codanā* 章、*Ātmavāda* 章、*Sūnyavāda* 章、それにプラジュニャーカラ自身も大量に引用する *Nirālambanavāda* 章等の偈が数多く確認される。

興味深いのは、これらの ŚV の偈に交じって、ŚV に対応の見いだせない偈もまた相当数引用されている点である。本稿では、ジャヤンタ註 *pramāṇasiddhi* 章に現われる引用群を例にとり、これら ŚV に対応の見いだせない偈の出典を検討してみたい。結論を先取りすれば、ŚV に対応を持たない偈のうちの幾つかは、他書における引用との対応などから、クマーリラの散逸した著作 *Bṛhatṭīkā* (=BT) に由来することがほぼ確実であり、またそれ以外の、他書に全く対応を持たない偈の多くも、BT を出典とする可能性が高いと考えられる。

### 1. *Bṛhatṭīkā* と *Tattvasaṃgraha*

ジャヤンタ註における問題の引用群の検討に先だって、従来の BT 研究に一瞥しておく必要がある。フラウワルナーは1962年に、この散逸したクマーリラの著

作に関する画期的な論文を発表した<sup>2)</sup>。すなわち、彼はその論文の中で、ラトナキールティの *Sarvajñāsiddhi* 他の著作に見られる *BT* からの引用とジャイナ文献に現われる引用とを手掛かりに、シャーンタラクシタの *Tattvasaṃgraha*(=TS) の最終章 *Atindriyārthadarsiparīkṣā* と第25章 *Svataḥprāmāṇyaparīkṣā* 両章の前主張 (*pūrvapakṣa*) の全体が *BT* からの引用である、と主張したのである。

本稿に直接関連する *Svataḥprāmāṇyaparīkṣā* 章に関して言えば、その前主張中には、ラトナキールティが *BT* のものと名指しで引用する偈 (*TS* 2871) が見いだされ、また *ŚV* の中に対応を持つ多くの偈以外に、*Tattvabodhavidhāyinī* (=TBV), *Prameyakamalamārtaṇḍa* (=PKM) 等のジャイナ文献には見いだされるが *ŚV* には存在しない偈が数多く含まれている (*TS* 2847; 2850; 2853; 2861-63; 2865-71) こと、さらにそれらのうちの多くがジャイナ文献ではクマーリラに帰せられていることを、フラウワルナーは指摘する。そしてこれらのことから、同章の前主張の全体が *BT* からの引用であると結論づけている。

## 2. ジャヤンタ註における引用群

プラジュニャーカラは *PVA* 冒頭部分で *PV* の *Pramāṇāsiddhi* 章の第1-7 偈を註釈しつつ、認識根拠の定義を詳細に論じている。認識の真に関する仏教論理学派の立場は、周知のように所謂「他律的真理論」(*parataḥprāmāṇyavāda*) であり、「自律的真理論」(*svataḥprāmāṇyavāda*) を奉じるミーマーンサー学派のクマーリラの言明は、常に仏教論理学派の註釈者たちの論駁の対象とされてきた。

ジャヤンタもまた、時にはクマーリラの *ŚV* を引用してミーマーンサー学説の批判を展開しているが<sup>3)</sup>、プラジュニャーカラによるミーマーンサー学派の自律的真理論批判を註釈する文脈には、対論者の主張として、以下のような、*SV* には対応を見いだすことのできない多数の偈の引用が含まれている。

[引用群1] J[D] (De) 13b7-14a2: de yang / (1) gcig pu ltos med kho na nyid // tshad (:mtshan PD) ma nyid kyi (P: ni D) rgyu mtshan ste // ltos bcas nyid la yang dag par // gnas na de nyid rnam nyams 'gyur // (2) gang phyir rtsa ba'i phyogs dor nas // su zhig rigs pa smra 'dod 'gyur // gang gis de sgrub pa'i thabs kyang // rang gi tshig gis rnam (P: rnams D) nyams 'gyur // (3) ltos bcas tshad ma nyid du ni // rnam par gzhas pa gang na 'ang (P: yang D) med // ces bya ba dang / (4) ji ste mi bslu'i snga ma yin//slu ba med can nyid (: gnyis Dp) tshad nas // phan tshun yang dag brten nyid kyi // tshad mar brtag bya nyid nyams

(186) 仏教論理学者ジャンタの引用するクマーリラの偈について (小野)

'gyur // zhes kyang bstan pa yin no //

[引用群2] J[D] (De) 18b6-30b2: de yang / (5) re zhid tha mas dang po gnyis //  
bar mas de bzhin thog mtha' dag // yongs gcod dang po bsal nas ni // tha ma tshad  
ma nyid yin no // zhes smos pa'o // [中略] / de yang / (6) shes pa snga ma'i 'bras  
bu ni // rnam gcod phyi ma gnod byed yin // 'bras bu 'joms pa gnod byed pa // yin gyi  
khyad par can gzhan min // zhes smos pa'o // yang yul 'phrog pa ni ma yin te de  
mi nus pa'i phyr ro // de skad du yang / (7) 'das pa yang ni yul las kyang // rnam  
gcod nyid ni (D: mi P) nus min te // rkun pos nor blangs nas bye rab // de las dbrog  
par su yis nus // zhe ssmos pa'o // [中略] // de yang / (8) de ltar rtogs byed shes pa  
ni // gsum char gsal ba ma yin te // de phyr gnod pa skye min pa'ang // gnod pa can  
du'ang dogs bya min//zhes smras pa'o// [中略] // (9) ma skyes pa la'ang gnod pa  
can // tshol ba'i rmongs pa gang yin pa // de ni tha snyad thams cad la // yid gnyis  
ngo bo zad de 'gro // zhes bya ba dang / (10) kun ti'i (P: ta'i D) bu rnams the  
tshom dang // bdas la 'jig rten 'di dang gzhan // med ces the tshom bdag nyid  
can // khyab 'jug gis ni smad pa yin // zhes smos pa'o // [中略] // de yang / (11)  
gnod pa can don gnyer ba la // gang zhig gang la ltos pa yin // yul dus mi yi  
gnas skabs kyi // dbye rnams tha snyad nyid la nges // zhes smos pa'o // (12-13)  
thag ring po na gnas pa nyid kyi phyr / gang la ji lta ba bzhin mthong ba ma  
yin par dogs pa de la the tshom log pa'i mtshams srid du / thag nye bar phyin  
pa nyid yin gyi dus gzhan la sogs pa la sdod pa ni ma yin te / smig rgyu la  
sogs pa'i shes pa lta bu'o // (14) de bzhin du dmag gi dus su ba lang ngam rta  
la sogs par the tshom za ba 'am / 'khrul pa gang yin pa de la nges par 'gyur ba  
ni mtshams yin no // (15) mtshan mo srin po me khyer yang // me dang 'dra ba  
kun gyis mthong / nyin mo gsal bar mthong nyid kyis // 'khrul pa yin par go  
ba yin // de bzhin du / (16) zla ba gnyis dang phyogs rmongs dang // rig byed  
yi ge dbyangs sogs rnams // skyes bu gzhan la legs dris las // gzhan pa nyid du  
nges 'dzin 'gyur // (17) 'dod chags zhe sdang myos dang smyo // bkres skom sogs  
kyis dbang nyams pas // shes bya don la log rtogs pa'i // phyin ci log rnams med  
las so // (18) de bzhin phra ba bskor ba las // 'dra ba sogs rnams la 'khrul nyid //  
rgyu yi phyin ci log gyur las // gzhan pa nyid du nges 'dzin 'gyur // (19) de ltar  
rgyu yi skyon rnams su // gang zhig gang la rtogs 'gyur ba // de nyid yod dang  
med pa las // de la bden dang brdzun blo dag // ces bya bar dogs pa la /

ここに引用されている諸偈(下線部)は、実はその多くが TS の第25章 Svata-

ḥprāmāṇyaparikṣā 前主張の偈と一致している。すなわち、まず初めに(8), (9)は、各々 *TS* の第2870偈, 第2871偈に一致する<sup>4)</sup>。後者はラトナキールティによって *BT* の偈と明記されており、両偈はジャイナ文献にも引用されている。

他方, (1), (2), (3), (10), (11), (16), (17) は、各々 *TS* の第2813偈, 第2814偈, 第2815偈 ab, 第2872偈, 第2875偈, 第2879偈, 第2880偈に一致し、さらに(12~13), (14) の箇所は、各々第2876-2877偈, 第2878偈の内容を散文化したものである<sup>5)</sup>。これらの諸偈については、従来ジャイナ文献等の中には引用は見いだされておらず、今のところ *TS* とジャヤンタ註の引用にのみ共通する偈である。また上記引用群とは別の箇所に *TS* の第2860偈と一致する偈も引用されているが<sup>6)</sup>、これも従来ジャイナ文献等の中には見いだされていない。

### 3. ジャヤンタの引用の出典

以上から、ジャヤンタ註の引用中には、フラウフルナーが *BT* からの引用であると考えた *TS* の第25章 Svataḥprāmāṇyaparikṣā 前主張の77偈のうち、従来 *ŚV* はもちろんジャイナ文献においても対応の見いだされていない、少なくとも10偈半に相当する偈が、偈のまま乃至は散文化されて引用されていることが明らかとなった。それではジャヤンタはこれらの偈をどこから引用したのであろうか。

まず初めに考えられるのは、*TS* そのものから引用した可能性であろう。しかし恐らくその可能性は少ない。なぜなら引用群1の偈(4)は、ジャイナ文献では *TS* の第2853-2854偈と一組のものとして引用されていながら<sup>7)</sup>、*TS* の中には対応するものを見いだすことのできない、以下の偈に同定されるからである。

saṃvādasyātha pūrveṇa saṃvāditvāt pramāṇatā /  
anyonyāśrayabhāvena na prāmāṇyaṃ prakalpatē //

この偈が引用されている事実から、前掲のジャヤンタ註の引用群の出典として、少なくとも *TS* 以外の源泉が存在したことが確認される。しかしその場合には、ジャヤンタが *TS* とそれ以外の源泉を併用したみるよりは、この偈を含む *TS* 以外の源泉から一括して引用していて *TS* は用いていない、と考える方がはるかに自然であろう。この *TS* 以外の源泉こそが、*BT* に他ならない。

以上の考察から、ジャヤンタが *ŚV* 以外に、*BT* をも直接参照し引用していたとみて差し支えないと考えられる。従って、ジャヤンタの引用中の *TS* と共通する10偈半は、*BT* から直接引用されたものであることになる。このことから翻って、*TS* の第25章 Svataḥprāmāṇyaparikṣā 前主張の全体が *BT* からの引用で

(188) 仏教論理学者ジャヤンタの引用するクマーリラの偈について (小野)

ある、とするフラウワルナー説の妥当性は、さらに高まったと言えよう。

#### 4. ジャヤンタ註からの *Bṛhattikā* の未知の偈の回収可能性

しかしながら、さらに重要なことは、ジャヤンタの引用の中には、*ŚV* は無論のこと、*TS* にもジャイナ文献等にも対応を見いだせないものの、その引用の文脈からみて、*BT* のものであることが確実視される偈と同一の出典をもつとみなすことが可能な、相当数の偈が存在している、という事実である。

例えば、前掲の引用群 2 における (5), (6), (7), (15), (18), (19) がその種の偈である。これらはいずれも、筆者の管見の及ぶ限り、今のところ *TS* にもジャイナ文献にも、さらに *Nyāmayamañjalī* や、*Nyāyaratnamālā* に現われる *BT* の引用と考えられる偈<sup>9)</sup> の中にも対応を見いだすことはできないが、文脈から見て、この引用群を構成する他の偈と同じ出典から引用されたものであって少しも不自然ではない。*TS* における *BT* の引用が、幾つかの偈の省略を伴っていることは、*TS* とジャイナ文献における引用との比較対照により、既にフラウワルナーの指摘するところである<sup>9)</sup>。以上から、これらの偈は、今日ジャヤンタ註のチベット訳からのみ知ることでできる *BT* の偈である可能性が高いと考えられる。

しかも、このような例は前掲の引用群の箇所にとどまらない。例えば、引用群 1 の少し後の箇所に引用される 1 偈<sup>10)</sup> 等も、同じく *BT* を出典とするとみて差し支えないのではなからうか。さらにジャヤンタ註には、前述のように、ここで取り上げた自律的真理論批判以外の箇所にも数多くの対論者の偈の引用が見られるが、それらの中に *BT* の未知の偈が含まれている可能性も十分考えられる。

以上のように、ジャヤンタ註の引用は、晦渋なチベット訳によるものとはいえ、*BT* の未知の偈の回収に一役買う可能性のある資料として、注目に価するものと言えよう。なお、偈の意味内容に立ち入った考察は、今後の課題としたい。

---

J[D]=*Tshad ma rnam 'grel gyi rgyan gyi 'grel bshad*[\**Pramāṇavārttikālaṃkāraṭīkā*] Derge No. 4222, Vol. 7-8, *Tshad-ma*, (De) 1b1-312a7; *TBV*=*Tattvabodhavidhāyini: Saṃmatitarkaprakaraṇam*. 2 Vols, Kyoto, 1984; *TS*=*Tattvasaṃgraha*. Ed. S.D. Shastri, Varanasi 1982; *NM*=*Nyāyamañjalī*. Ed. S.N. Śukla, Benares City 1936. *PKM*=*Prameyakamalamārtaṇḍa*. Ed. Mahendra Kumar Shastri, Delhi 1990; *RNA*=*Ratnakīrtinibandhāvalīḥ*. Ed. A. Thakur, Patna 1975; *ŚVK*=*Ślokavārttika-Kāśikā*. Ed. K.S. Shastri, Trivandrum 1990.

1) ジャヤンタ註、それにヤマーリ註の成立年代、基本性格等については次の拙稿を参照されたい。小野基「仏教論理学派の一系譜—ブラジュニャーカラグプタとその後継

- 者たち一』『哲学・思想論集』第21号, 筑波大学哲学・思想学系, 1996.
- 2) Cf. E. Frauwallner, "Kumārila's Bṛhaṭṭikā", *Wiener Zeitschrift für die Kunde Süd- und Ostasiens*, Bd. 6, 1962: 78-90.
  - 3) Cf. J[D] (De) 14a6ff. ここには, ŚV, Codanā 章の v. 48, 49, 50ab, 52, 62ab が引用されている。
  - 4) Cf. TS 2870: evam parikṣakajñānatritayaṃ nātivarttate / tataś cājātabādheṇa nāśaṅkyam bādhakam punaḥ // (cf. TBV 19, 11f.); TS 2871 utprekṣeta hi yo mohād ajātam api bādhakam / sa sarvavyavahāreṣu saṃśayātmā kṣayaṃ vrajet // (Cf. RNA 112, 21f.; TBV 8, 14f.; PKM 7, 10f.; J[D] (De) 21a7)
  - 5) Cf. TS 2813: anapekṣatvam evaikam prāmānyasya nibandhanam / tad eva hi vināśyeta sāpekṣatve samāśrite //; TS 2814: ko hi mūlaharam paksam nyāyavādy adhyavasyati / yena tatsiddhyupāyo 'pi svoktyaivāśya vinaśyati //; TS 2815ab: sāpekṣam hi pramānatvaṃ na vyavasthāpyate kvacit /; TS 2872: tathā ca vāsudevena ninditā saṃśayātmā / nāyaṃ loko 'sti kaunteya na paraḥ saṃśayātmanaḥ // (cf. ŚVK 95, 10f.; NM 153, 9f.); TS 2875: deśakālanarāvasthābhedāḥ saṃvyavahārataḥ / siddhā eva hi ye yasmiṃs te 'pekṣyā bādhakārthinā //; TS 2876: dūradeśavyavasthānād asamyagdarśane bhavet / anyāśaṅkā kvacit tatra samīpagatimātrakam //; TS 2877: apavādāvadhīḥ kālanarāvasthāntare na tu / vyapekṣā vidyate tasmin mṛgtrṣṇādibuddhivat //; TS 2878: evaṃ santamase kāle yo gavāśvādīsaṃśayaḥ / bhrāntir vā nirṇayas tatra prakāśibhavanāvadhīḥ //; TS 2879: tathā dvicandra[cor.: hi candra]digmohavedavarṇasvarādiṣu / puruṣāntarasampraśnād anyathātve 'vadhāraṇam //; TS 2880: rāgadveṣamadonmā-daksuttrṣṇādīkṣatendriyaiḥ / durjñāne jñāyamāne 'tha tadabhāvād viparyayaḥ //
  - 6) Cf. J[D] (De) 17b2f.: mi bslu yon tan rnam shes la // lhag par mngon 'dod su zhig yin // de la dang po'i rag las par // gang gi stobs kyis 'gyur ba yin // = TS 2860: saṃvādaguṇavijñāne kena vābhyadike mate / ādyasya tadadhinatvaṃ yadbalena bhaviṣyati//
  - 7) Cf. TBV 6, 27-32; PKM 155, 5-11.
  - 8) Cf. 若原雄昭「インド哲学に於ける真理論の一資料 —Nyāyaratnamālā 研究—」『龍谷大学論集』第443号, 1993: 88-108.
  - 9) Cf. Frauwallner, op. cit.: 82; 86.
  - 10) Cf. J[D] (De) 16b5f.: ji ltar tshad ma nyid yin pa // thams cad la 'bras 'byin 'gyur ba // tshad ma skyed byed nyid la yang // de bzhin tshad ma skyed byed 'gvur //

〈キーワード〉 Jayanta, Bṛhaṭṭikā, svataḥprāmānya

(筑波大学助手, Dr. phil.)